

語り手

篠原 しのはら

玲子 れいこ

さん



あさのは商店

姫路市八代

姫路生まれ・姫路そだち。姫路↓大阪

↓徳島↓姫路。

肌の弱い自分が必要なものを近くで買えるとうれしいなと、肌にやさしい日用品「あさのは商店」をしています。趣味は、ウクレレ・縫い物・言葉の観察など。

篠原玲子です。生年月日は昭和五十五年十二月十日、三十七才です。

自宅の離れ

二〇一二年四月にお店をオープンして、今六年目です。自宅の離れを使ってお店を始めようと思ったのは、場所があったからです。誰も使っていないだったので。場所を借りてまでするほどの意欲ではなかったんです。場所がある、じゃあ出来そう！元手が少なく出来そう、という感じですかね。

そのままお店にした結果、靴を脱いで、室内で商品を見ていただく形になりました。お客さんはみんな、あら、いい感じ！って言うてくれます。畳やし、襖や天井も変わっとうし、素敵って言うてくれてですけど、私はここが土間やったらその方がいいと思うし、そんなに手を入れずにしたので、こうなって、意外に受けた感じですよ。

庭

庭も何もしてないです。ほんとはもっと、このごちゃごちゃしているのも片づけるべきなんです。挫折して。家族の協力も得られないし、ちょっと片づけてもすぐ出てくるし、まあええかと。それでお客さんが増えるとも減るとも思われへんから、あんまり汚いと思われへん程度にしとけばいいかと。

さくらんぼは子供の頃に植えました。実がなかったら楽しいね、って。ブルーベリーはお店を始めてからかな？花だけだったらしようもない、実がとれたら楽しいってね、ジャムとか作りたいし、柚子を植えたのは去年くらいです。庭もきれいにしとってですね、ってよく言われます。自然な感じで。窓から見えるのもいいね、って。私も今は思いますよ。



店の外観と冬の庭

元が恵まれてたんですね。お父さんありがとう。

虫が嫌やしね、うひょ、虫が！と年中あぁ！ってなってます。自然、大して好きじゃないもん。また毛虫が！とか。前の紅葉もきれいけど、虫がすごい。アブラムシ。三年くらい前に発見して、それまでは存在に気づかへんかったから、何も思ってたのにな、気づいたらむっちゃおるから、毎年うひょ！ってなってます。年々新しい虫の存在に気づいて、あ、これ虫のせいやったんや、て。門の前にある木も、これカイガラムシやったんや。ブルーベリーにつく毛虫は卵から発見できるようになって。観察の結果、一番自分に被害無く駆除できるようになりました。

ここで店をやりたいと家族に話したときも、あ、ええんちゃうて。寛大な家やな、と思いました。両親は自営業やし、その実家も商売してる家やから、公務員とか会社員が身内に少なくて、店をすることに抵抗が無いんやと思います。そんなんでできるんかいな？、っていうのはあるけど、あかん、とは言わへん。エアコンつけてもらったくらいかな？あと駐車場に長いことコンクリートが入ってなかったのを直してくれました。

接客についてはあまり考えたことがなくて。お店っぽいのが恥ずかしいからようせんし、ことさらに買え買えと勧めたくない。もちろん売れたら嬉しいんやけど、乗せて買わしたようにはしたくない、要るひとが買えばいいっていう感じなんですよ。

行商

行商って言葉は今あんまり使われてないですけど、私は行商やな、と思ってる。インパクトもあるし、背負って行く感じが、がんばっていきます、って感じがいいかなって。

今ほど積極的に行き始めたのは去年の春かな。それまでは、日月以外は毎日ここにいたので、そんなに歩けなかったんですが、待っていて人も人は来ない！これではやっていけ



船場御坊市での行商の様子

ない、と思ったので去年の春に営業日を木金土にして、日曜日は休み、イベントもあるし、月火水はバイトと行商しようと思って。そういうスタイルに変えました。ずっと開けているときよりも多少、売り上げが上がっているのと、ずっと待とうっていう精神的なつらさが減りました。ちょっとアグレッシブに行く方が、広がる感じがします。バイトに行けるしね、経済的にも前より良くなりました。売り上げの割合としてはお店と行商で半々くらいかな。行っても全然売れへん先もあるんでね、毎月行くことにしようけど、今日は遊びに行ったなあって時もあるので。

自分から行商先を開拓したことはあんまりないです。イベントで一緒になった、とかお客さんや友達が紹介してくれたり、相手先から言ってくれたり、だいたい声をかけてもらったところに行くことが多いですかね。そしたら雰囲気の良いところとつながっていった、という感じです。

商品のこと

商品の仕入れは、はじめにこういう、「肌にやさしいものを扱いたい」というのは決まっただけど、そこから、どうしたらいい?となって。今メインで置いてるのは下着が多いんですけど、最初はネットで検索したりしてました。

日本アトピー協会っていう患者団体があって、その推奨マークを見つけて。まずアトピー協会ってなんなんやろ、と思って。推奨マークをいろんなものに付けとって、そこに問い合わせして、会いに行き、メーカーに紹介してもらいました。小さいロットで扱わせてほしい、って交渉したり。あとは自分が着てみて良かったものや、それまでよく使ったものとか。洗剤もあったほうがいいやろな、とか。日常で自分がどういう買い物に困ったのかな?こういうのがあったら嬉しいかな?って言うのを思い浮かべて、メーカーに問



一番東の行商先、
神戸市西区キヨキヨさん店内にて



ここちよい肌着と赤ちゃん小物

い合わせて、話を聞きに行ったり、直接交渉するのがほとんどですかね。

面白かったですよ、その期間が。四月にオープンしたけど、仕入れをし始めたのはその前の秋からやから、半年もかけてないと思います。自分でも、すごい勢いがあったな、と思う。えらいがんばったな、あのとき。最初はもうほんとにね、これ店か？っていうくらい物が少なかったんで。徐々に増えていったんです。仕入れの額も最初はめっちゃ少なかったんで。

店を始めるきっかけ

二〇一一年の二月に会社をやめたんです。体がしんどかったこともあるし、親の仕事を手伝いたい、と思って帰ってきたんです。母が疲れてるのが心配とか、前の会社ではずっとはやっていけへんな、というのが積もり積もっていたので。二、三年はずっと考えてたんですけど、もう自分がやっちゃったプロジェクトも区切りがいいし、辞めどきやな、と思って辞めました。ほんで帰ってきて、いろいろ動いて考えた結果、やっぱり手伝うのは止めにして、家のご飯をしたりすることで母を助けることにしたんです。でも仕事を辞めて帰ってきたし、私はこれからどうしよう、と思って。会社でも楽しくやってたんですけど、方針とか上司がこんなんや、とか、いつもぶんぶんしてたんですよ。帰ってきてても、いろいろ反りが合わないことがあって、これは私に問題があるかもしれへん、と思って。そこでぶつうに就職しとけば良かったんかもしれんですけど、人と一緒に仕事ができへんのかなと思ったら、自分でするしかないじゃないか！きてどうしよう？と思って。

会社におるときから、パンやジャムを作って人にあげたり、あげるばかりじゃ面白くないから、百円くらいで売ったりして遊んでたんです。それで、パン屋かジャム屋か、と思ったりもして。でも私は暑いのが苦手やからパン屋は夏場無理やろ、と。ジャム屋も徳

島におったから、いっぱい柑橘があって、わーいわーいと楽しく作っていたけど、別にここで私がジャム屋をするモチベーションはなくて。それである日お風呂に入っとう時にはたと思いついて、私ができるのはこれじゃないか！って、母に言うたら、あ、ええやんか、ええやんな、って感じで。なかなか無かったんです、こういうお店。

徳島におったときに、冷え取り専門店があってね。まだ冷え取りが流行ってへんときに、靴下の重ね履きとかシルクの商品とか、しめつけない下着、あ、ここで売っとうブラジャーもそのとき買ったやつです。そのときから、ええな、と思っとうったんです。めっちゃ絞った店やったのに意外に流行ってるし、私も好んで行きよったし、こんな店があり得るんや、と、需要があるかも、と思ったんですよ。でも思うほどバンバンお客さんが来るわけではなかったけどね。

セールについて

不良在庫は年に一回、赤穂のグリーンデイズさんのクリーニングデーで安く売ったりしてます。セールはね、メーカーさんの希望で、値崩れせんように安くは売らないで、っていうのがあるんです。安くして、そのときだけ売れても、私も困るしね。やっぱり正規の値段で売りたいし、ほんとに必要とされて買われた方がいいから。あまり値引きはしたくないな、と思っってます。

お店のホームページ

ネット販売を通じてお店のことを知って、遠くから買いに来てくれるお客さんもいます。自分が行商で出向いたところのお客さんが来てくれることも。ネットで売ることを主にす



商品棚の上には季節の小物が飾ってあります

るつもりはないけど、一度お店に来てくれた人が、頼んでくれることがあります。送料何百円で送ってもらえるなら、って。対面で売る方が私は楽なんですけどね。通販だと、箱開けてみて思ったのと違う、とかありますし。

一番大きい商売敵はやっぱりネットショップですね。ここで買って気に入ったものをメーカーのサイトで直接買われる方もいますから。おしゃべりを楽しみに来店してくださる方もいて、いろいろですね。

子どもの頃

ここに引越してきたのは小学校の二年生の時です。おとなしい子だったので、今のように誰とでもしゃべれる感じではなかったです。小さい町内に同じ年の子が三人いて、その子らとは仲良うできてましたけど、それ以外はあんまり。静かな子でした。男の子とはようしゃべらんかった。

学校の勉強はようできました。なんせ真面目やった。かゆくても。今でも覚えというのが、小学校五年の時に新聞の切り抜きを毎日しなさいっていう宿題が出たんです。政治経済か歴史、みたいにテーマを決めて。今考えたら政治経済なんて小学校五年生の子がどこ切んねん？と思いますが、私はそのとき環境問題に関心があって、環境問題と歴史を切ることに決めて、毎日切ってたんです。その時も肌が大変かゆかったので、学校行くのも大変だったのに、切り抜きなんかもう、ずっと続けよう人はおらへんかったのに、「あれはしななげば！」って「新聞捨てんといて」って茶の間にボーって積んで泣きながらするっていう。そういう、そらかゆくなるわ、っていうような性格の子でした。

算数や理科よりも国語や図工、絵が得意でしたね。体育が全く出来なかったです。

中学校は暗黒時代と自分で呼んでいて。春休みに入院して、かゆいまま学校に入ること

になりました。なんせかいかったから、夜寝られへん、起きられへん。学校もめっちゃ遠くて、歩いて四十分くらいかかりました。ここは校区の端っこなんですけど、競馬場のとこまで。なんせ遠くって週の半分くらい休むこともありました。

その頃、かゆいのは精神的なものかもしれないからカウンセリングに行ってみなさいって、通っていたお医者さんに言われて、カウンセラーのところに行きました。最初はよくある箱庭とか木をかけ、とか言われてね、けっと思っただんですよ。

なにがわかんねん？て。実を多く描いちゃう、みたいな感じでやって、それでも何回か行ってました。そこは私の他にもアトピーの子が来てたんですけど、ある時カウンセラーの先生に「お昼から行きよう子もおるよ」って言われて。朝から行けなくてもお昼から行けばいいのか、そうですか、と思っ。親から学校に話をしてもらって、お昼から行くようになりました。送ってもらって。でも周りから悪く言われたり、暗い時期を過ごしました。

転機

三年生のゴールデンウィークの時に高知にあるアトピー治療で評判の病院に知り合いの人が行って、「すごい治ったで、篠原さんのところも行ってきたら？」って母に勧め。あんまり情報がなかったけど、一か八かみたいな感じで家族で旅行がてら行って、私と母だけ、そこに残って十日くらい滞在して劇的に治りました。特殊な薬を塗ってぐるぐる巻きにするんです。毎日。家では絶対できへんからね、べったり薬つけて。そこから劇的に良くなって、「おお、人生は明るいぜ」ってほんまに思って、「かゆくないってこんなに素敵」みたいな。

それからは学校も朝から行くようになったし、勉強ができるようになりました。それま

でも真面目やったけど、ちゃんと授業を受けられなくてテスト勉強もできへんかったけど、あ、勉強ができる！勉強したらテストの成績があがる！それがめっちゃ面白かった。良いときに治療に行けたんです。

そして高校に入学したら、周りは基本まじめでいいひとばっかりだったんです。それがね、良かったです。運動会も文化祭も、「みんなでがんばろう！おー！」ですよ。すくすく育ったような子が多くて、ほんまに。人の悪口とかも言わない。いろんな人がいたけど、みんな真面目なのが良かった。人生が楽しくなりました。

ことばの研究

何年生の時かな、課題図書で読んだ「教養としての言語学」っていうのが面白かったんです。一年間で読む課題図書のリストがあって、そこから選んで感想文を書く宿題がありました。その本が面白くて、ほほお、って。それで大学でも言葉の勉強をしたいと思うようになりました。

大学もすごく楽しかったです。もうかゆくて日常生活に困るようなことはなかったです。まあそこそこはかゆいけど、なんとかできるくらいに落ち着いてました。大学時代は真面目に授業を受けていたのと、学園祭の実行委員会に入っていました。実行委員長でした、最後は。それはあんまりいい思い出ではないんですけど、若気の至りって感じで。敵もいっぱい作ったし、嫌われたし、同じ学年の男の子とかに。うまくやったかどうかはわかりませんが、今考えたらようやったなって。

高校のときから、文化祭は好きでした。オープニングプロジェクトチームとか入って。あ、演劇部やったんですよ、私。演劇部はキャストがやりたかったのではなく、大道具がやりたくて入ったんです。大道具したり、舞台監督、緞帳おろすとかね、そんな感じです

けど、裏方仕事が面白くて好きで。文化祭もそんな感じで、その続きで大学も見学に行ったら面白そうだったから入って、楽しかったですね。

勉強も面白かったです。方言の研究が大学でしたけど、社会言語学で有名な先生がおつての大学は落ちて、別の大学に行っただんです。そこは一般的な言語学の授業しかなくて。私は言葉の変化が勉強したかったですけど、なかったんです。それが、三年生の時に単位互換制度が始まって、行きたかった大学の授業に行けることになりました。そして、たらずごく面白くて、同じことに興味のある仲間がいっぱいおるし、学生も多いし、もう、ここに行かなければ、と思って。そのときもすごいがんばっていた時期で、通っていた大学の隣の女子大に社会言語学の先生がおつて、目標にしていた大学の博士課程の人も講義をしにきてたんです。卒論はその先生に見てもらいました。ゼミの先生はあんまり関心がなかったから、ちゃんと見てくれなくて。調査の仕方もわからなかったけど、女子大の先生が親切で、その先生と院生の人が世話してくれて、がんばれました。面白かったですね、女子大のゼミって、キラキラしたお姉さんたちと一緒に授業を受けたり、私は潜りやの一番前の席で聞いてましたもん。後ろの人たちは鏡見たりしてました。フィールドワークと一緒にいたりしましたけど、キラキラさんたち、見た目ほどこわくはなく、いい子たちでした。恵まれてましたね。

そのあと志望していた大学院に進学しました。卒論をがんばって、入試も突破し、大阪で初めて一人暮らしができて。それも楽しかったですね。

進学か就職か

院の進学はだいたい二月三月くらいに決まるんですけど、その年の三月、家で新聞を見ていたら、朝日新聞のちょうど真ん中ぐらいを開けたところにバンと、一太郎の広告が載っ



進路を決めるきっかけになった新書
(右)と院生時代のバイブル(左)

てたんです。今もまだ家に置いてあると思いますけど。「言葉が変わり続ける限り、一太郎は進化する」っていう気合いの入った新聞広告で、「わあすごい！」この会社と思って。こんな仕事があるんや、と。そのときはコンピュータに特に興味がなかったから、一太郎は名前しか知らなかったんですけどね。一時期メジャーでしたよね、Windows98が出るまでは。ATOKというかな漢字変換ソフトが方言対応したよ、っていう広告やったんです。三月に発売される、その広告でした。だからここに行きたいと思っていた。それと研究室にいる人たちは、もっとすごかったんです。興味もすごいし、勉強するエネルギーもすごいし、私はそこまでの疑問は持てなかったし、そんなに本も読めへんかった。専門書もそんなに集中して読めなくて、これずっとは無理やな、と思って、そこに就職しました。

仕事

方言対応ソフトの開発は私が入る前にいったんは終わってたんですけど、そのメンテナンスをしたり、パソコンの機能を携帯に移したりしてましたね。

仕事は楽しかったですよ、楽しかったけど、きりがありません。ずっとATOK（かな漢字変換ソフト）の辞書を作る仕事をしていました。それがしたいと思って行っただんですけど、新しい言葉が出たらそれを入れるとか、誤変換を直すことを日々やっていて、これ、誰が喜ぶねん？みたいなね、やったことに対して反応が来ないから、ずっと箱の中でパコパコパコパコ仕事やってて。毎年製品を出すたびに、新機能をつけなあかんですけど、そんな誰が喜ぶねん、と思うようなのを一生懸命つけてね。けっこうええ給料やったんですけど、けど、これは誰が喜んでくれて、私はお金をもらいよんやろう、って。そういうのがずっとありました。同僚はいい人たちやったし、生活も面白かったですね。いい会社だったんですよ、メンバーがみんな仲良しで。でも六年おったけど、その半分ぐらいはずっと悩ん

でいました。それと比較すると今の仕事はお客さんの反応が見えるのが嬉しいです。わかりやすいしね。

面白いことがしたい

辞めようかどうかしよう、って思っていたときに、今も注目されてますけど、徳島の神山町によく行ってたんです。ワークショップがあって、すごい楽しくて、いろんな人が移り住んできたりにして。結構な田舎なんですよ。山の中で。だけどこんなに面白い。当時姫路はそんなに面白いところだと思ってなかったけれど、帰ったら帰ったで、結構楽しいんちゃう？と思うようになりました。私が徳島市内から神山に移って何か仕事をするのもできたけど、それをよその土地でするのは、なんか変やな、それやったら帰った方がいいな、って。

豆本「まめ」発行

最初の発行は二〇〇八年の二月、ちょうど十年前！二十代でしたね。私は当時、大橋歩さんの雑誌「アルネ」が大好きで、日々の暮らしの中で見つけたちょっと良いことを伝える、そんなことをしたかったんですね。

自分はこう思う、っていう主義主張は書かないで、客観的な情報を伝えるようにしてました。お花見ポイントとか、地域のちょっと面白いスポット・映画や本の紹介、季節のレシピ書いたりとかね。手作りジャムやパン作ったよって書いてるのもありますね。

最初は無記名で会社に置いてたんですけど、ちょっとずつもらってくれる人が増えて、記名式にしました。楽しみにしてくる他の部署の人が私のこと「まめちゃん」て呼んで

くれたりもして。豆本のまめと、まめまめしい、あと自分がちっちゃいのと、言葉を掛けて「まめ」にしました。

あ、まめウェブ、今もダウンロードできるようになってますね。三十一号が終わりでした。

最終号は、お店をはじめました、っていうのと月に一回マーケットを始めましたっていう記事ですね。お店ができてからはホームページやSNSで情報発信するようになったから、止めました。

アトピーの治療について

帰ってきてからはね、割と元気です。三年くらい前に高知の遠いところの治療をずっとしているのは違うな、と思って、近所の病院のステロイドを使う標準治療に変えました。そこからはなお、いい感じですよ。気軽に行けますしね。それより前はステロイドがわからなかったから、あかんあかんと思ってたけど、ちゃんと共存していけるような治療やし、快適です。

治療法については、アトピーに悩むお客さんがいらした場合は、知りたそうにされている時は伝えますが、こうした方がいいですよ、とは言わないようにしています。私はこうですけどねって。一例として。私自身ステロイドはこわくないし、使っています。そのことは友達くらいに親しかかったら言いますが、お客さんには言わない。そういう立場じゃないから。だから本を置いたり、記事を紹介したりして、客観的な情報が伝わったらいいな、と思ってますけど、本当にいろいろな考え方があるのでおつかいしますね。

お店のこれから

豆本「まめ」
全て篠原さんの手書き、字と絵もまめ
サイズ



店をしていて良かったと実感するのは、かゆいひとにしろ、下着の締め付けが嫌なひとにしろ、良かったわ、あれ。とか、すごく良かった！と喜んでくれるのが一番嬉しいです。

今後の展望？どうしましょう。営業日は木金土だけで良いのか、っていう悩みとか。水木金土にしたほうがいいやろか、とかね、みんなには合わせられないから。今後結婚して、子供産んで育てることがあったら、それを生かして、続けて行けたらいいなと思うし、自分が年重ねていって、今の私にはわからない中高年の困りごとがわかるようになったら、商品をもっと充実できたらいいなって思います。

商品開拓は楽しいですよ。開発もしてみたいけど、大変やろな。やっぱり大量生産されているってことは、そこに至るまでにいっぱい試作とか、いろんな意見を採り入れて、値段決めて、できているものだから。私がちょろっと思って作ったものなんてたいしたことないですよ。オリジナルのワンピースとか、小さいひとのズボンとかは気軽に楽しいですね。

お客さんは同世代以上ですね、若い人は、やっぱり締め付けてもきれいなブラジャーやかわいいパンツがいいでしょうから。三十代以上、六十代も来られますし、八十代のおばあちゃんも来ますよ。

仲間が増えた

私はここが自宅やから、この場所でお店をしていますが、開業前は姫路を離れて長かったし、元々カフェめぐりも趣味じゃないし、母に相談するしかないくらい、仲間がない状態で始めたんです。

店を始めるほんのちょっと前、三月かな、庭の外の花壇に枯れた切り株があって、抜こうと思って掘ってたんですよ。そこへたまたま雲舎の池島さんが通りかかって。そもそ



R201 さん作・
あさのは商店オリジナルワンピース

も池島さんは私がまだ会社員で仕事に悩んだうとときに、奈良の図書館であった西村佳哲さんの仕事について考えるセミナーで会ったんです。そのとき、後ろのお兄さんが隣の席の人と灘のけんか祭りの話をしてたんです。「僕姫路なんです」で、「私も姫路出身なんです、どうも」みたいな話して。それで姫路に帰ってきたら、大手前通りとかで会うわけです。「あ、どうも」「どうも」みたいな感じで、二、三回会って。その池島さんが、自転車で通りかかったんです。「あ、篠原さん何しよん？」で。それで「私はここで店をするんです」って言ったたら、「近所で僕の友達料理教室を始めるよ」って、Yukoshiさんに紹介してくれて。たまたま同じ日がオープンで、お客さんも重なってね。すごいでしょ。それでYukoshiさんと一緒にサンデーマーケットを始めて。その関係でコボトベーカーさんとも知り合ったし、右田農園さんとか、農家さんとも知り合ったし、露さんもやね。それとは別に同じ年の夏か秋くらいにパーランドさんができたんです。

私と同じ時期に辞めた先輩が高知県でイベントに参加したときにパーランドさんに会ったらしくて「そのひと近くなんちゃう？」ってメールくれたんです。「ほんまや、めっちゃ近所やわ」って言っとったら「これからオープンするんです」ってパーランドのオーナーさんが会いに来てくれたんです。繋がっていいって楽しいな、と思いました。

neccoさんもそんなんで出会ったんですね。sonniさんも、ままやさんの二軒隣でしよったんだけど、Yukoshiさん経由で知ったり。ただ私の家があっただけの場所に、いろいろお店ができて、野里商店街もうどん屋麦さんができたり、ここ数年で盛り上がってきました。朝市するようになったりして。お客さんがはしごしている寄ってくれて、「いい町ね」って言うってくれるんです。自分の住んでる町がいい町って言われてるって、嬉しいですよ。みんなたまたまなんですよ。パーランドさんもおばあちゃんの家があったところやし。Yukoshiさんはこの辺がよくて借りたみたいやけどね。

姫路に帰ってきて良かったです。けど、もうちょっと稼ぎたいかな。



月に一回、野里商店街の朝市に出店

聞き手

宮下 寛美 さん

公共図書館スタッフ。

聞き書きは、対話を一人語り置き換えていきます。

語り手さんの言葉が生きるように質問する、聞き手側の言葉選びの大切さを感じました。

篠原さんの人柄や語り口、仕事に対する思いが伝わると思います。